

今日のみことば

□ 4月8日(日) サムエル記下 3章

サウル王死後の軍師アブネルとダビデが手を結んだことによって起こった出来事、ヨアブの計略によりアブネルが殺害されたとき、ヨアブの罪を断罪、アブネルの死を悼んだ。

□ 4月9日(月) サムエル記下 4章

主君イシュ・ボシエトを暗殺して、報奨金を得ようとダビデのもとに来たレカブとバアナに、ダビデは彼らを戒めました。主君を殺した彼らは「地上から除き去れ」ました。

□ 4月10日(火) サムエル記下 5章

エルサレムは首都ダビデの町となった。ダビデの力がますます大きくなったのは「万軍の神、主がかれとともにおられた」からである。

□ 4月11日(水) サムエル記下 6章

神の契約の箱は80年近くもユダのバアラに置かれていたが国家統一をはたしたダビデは、その箱をそこから運び出し、幕屋の中に安置した。

□ 4月12日(木) サムエル記下 7章

ダビデはナタンに主の神殿を建てることを相談しましたが神はそれを赦されませんでした。しかし神はダビデにその王朝が永久に固くあることを約束されました。

□ 4月13日(金) サムエル記下 8章

ここにはダビデの驚くべき勝利が記されている。ペリシテを初め近隣諸国、エジプトとユーフラテス近郊の敵全部を征服した。「主はダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた」

□ 4月14日(土) サムエル記下 9章

ダビデはヨナタンとの約束を守った。遺児メシヨポテを探し召し出して、彼に恵みを示しました。ダビデのこの行為を通して私たちは、神がご自身の約束を確信させていただく。

ろ ぼ No. 1862
2018年 4月 8日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ヨブ記 2:10

「お前まで愚かなことを言うのか。わたしたちは、神から幸福をいただいたのだから、不幸もいただくのではないか。」

復活のキリストと共に生きる私たちは、何者にもうらやまれる勝者です。この喜びと誇りの中で生きる私たちは、しっかりとこの世の生き様にもそれが表れるものでありたいと願っています。今私たちの国は混乱しています。世界もそうですが、私たちは一刻も早くこの状態から抜け出さなければ滅びてしまうのではないかと、この危惧を持っています。それに対するヨブの言葉は、まことに痛快と言わざるをえませんが、それでいいのかと考えるのが、本当に愚かしい私たちなのです。私たちは神に生かされて、今日を感謝でここに立たせていただいているのではありませんか。もう一度み言葉に聞かせていただくのです。そしてしっかりと自分を見つめつる事の大事さに気づかさせられたいと願っています。私はこのことが信仰者の姿だと思っています。

ヨブは、この本当に驚きべき困難の中で、悠然と「わたしたちは、神から幸福をいただいたのだから、不幸をいただくのではないか」と言うのです。ヨブはどのような思いで、このようなことを言ったのでしょうか。ヨブの不幸は、ヨブにはまったく理解できないことでした。けれどもそれを受け入れましたそこに私は、いま私たちが直面し、私たちが右往左往している問題の本質があると思っています。今、私は越えなければならない問題に直面して戸惑っています。とてもヨブのような

心境ではありません。ただただ恐れがいっぱいで、キリスト復活の喜びを謳歌したその後ですが、ヨブに近づくことができないでいます。

ヨブがすべての財産を失い、そればかりか子どもたちを始めその親族も失いました。自身の身体にもひどい皮膚病におかされました。どん底のみじめさの中であえぐヨブを見た妻は「どこまで無垢でいるのですか。神を呪って、死ぬ方がましでしょう」と言います。「お前まで愚かなことを言うのか。わたしたちは、神から幸福をいただいたのだから、不幸をいただくのではないか」とヨブは答えます。私はこれを信仰のなせる業だとは言い得ないのです。

信仰を越えたものとは何だろうか。私には分かりませんが、ヨブの言葉はその答えを私たちに伝えているのではと聞かせていただいています。聖書は「ウツの地にヨブという人がいた。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた」(ヨブ1:1)と紹介します。完全な、非の打ち所ない人と言われるヨブに私はパウロの「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられる」(ガラテヤ2:20)との告白を重ねさせていただくのでした。試され、悲鳴を上げようとするその時、神はヨブに「これは何者か。知識もないのに言葉を重ねて／神の経綸を暗くするとは。」(ヨブ38:2)と言われヨブは「そのとおりです。わたしには理解できず、わたしの知識を超えた／驚くべき御業をあげつらっておりました。」(ヨブ42:3)と答えました。しっかり自らを見つめ直させられたヨブは、そこから大きく目を開かれました。本当にすべてを神の働きとして聞くときにこそ、私たちは大なる祝福をいただけるのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

コリントー 3:10-17 あなたはどう建てるか

「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。」と、パウロはコリント教会の分派問題を批判しました。

私たちにとって大切なのは、その土台だと言うのです。それは言うまでもなく、主であると答えられるでしょうが真実そうですか、と問われているのです。未だにこの世のものに思いを託している愚かさを指摘されるのです。

「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、私たち救われる者には神の力です」をパウロは言います。その十字架にこそ、私たちは腰を据えて建て上げることがなければ、すべては無です。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

ペテロー1:3-9

信仰に生きる